

54年間ありがとうございました～当別保育園～

特集  
祝成人・祝還暦

撮影地：波多野エクスバレーガーデン（森町）



あなたがいて、わたし、がある。

発行日 偶数月1日  
価格 1部160円  
発行者 大場公孝  
社会福祉法人侑愛会  
北海道北斗市追分7丁目8番9号<https://www.yuai.jp/>

社会福祉法人侑愛会



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)

施設長に就任して

道南しようがい者就業・  
生活支援センター すべてぶ



障害者生活支援  
ばする

発達障害者支援センター  
あおいそら



この度、令和2年4月1日付けで、すてっぷ所長に就任いたしました。入職時は、ゆうあい養護学校高等部の教員でした。20年前、気持ちが空回りし焦りと不安な日々を過ごしたことを見出します叱咤激励をいただいた諸先輩、同僚、何より生徒やご家族との繋がりは、多くの学びとなり、今思うと感謝の言葉しかありません。その後、あおいそら、すてっぷの相談員を経て、現職に至ります。

就労と生活をサポートする支援機関です。担当圏域は広範囲で各地域の資源や特色等も様々です。日本人と職場だけではなく、ご本人が働きやすく、暮らしやすい環境づくりのため、様々な分野と繋がり、連携することが役割の一つですが、相談員自身が一人で悩み抱え込んでしまうことも少なくありません。だからこそ、ワンチームで、一人の努力を見落とさず、そして一緒に仕事をする仲間として対話を積み上げていきます。一人ひとりの支援の質の向上に繋げていきたいと思います。入職時の諸先輩がそうであったように、今度は自分もそう在りたいなと思います。障がいを持つ人の「働く」という切り口から、相談支援を通して多くの方と出会い、様々な価値観や人生観等に触れ、たくさんのことを学んできたように思います。そこで得られた経験は、すてつぶで働くやり甲斐に繋がっていると言えるかもしれません。

今年、コロナ禍の生活が続き、社会的な距離感がそのまま人間関係の距離感にもなってしまわぬよう新しい相談支援の形が必要と改めて感じた一年でもありました。これからも、すてつぶ職員一同利用される方が、社会でいきいきと働き・暮らすた

令和2年4月からはじめての所長に就任しました。小谷です。福祉の仕事をしていくご縁で平成14年に入職したのは、介護会で地域に向けた相談窓口として3年前に開設したばかりのばばでした。

村川所長のお人柄か、毎日様々な方がばばしておられます。「コーヒー飲んでいい」と喫茶店のマスターのような優しい声かけが決まり文句だつた事を記憶しています。障害がある子どもの親の会やガイドヘルパー講習会の実施や運営、兄弟の会の立ち上げ等必要なものは引き受け、行政との連携を大事に、地域を窓口に様々な事業を受託してきました。開設時から、障害種別問わず、年齢問わず365日開設(悩み事に休みはない)というスタイルで相談対応をしてきました。0歳から90代と幅広い年齢層に対応し、あらゆる相談を受け、包括的に、利用者ノアーストの精神を体現してきた機関ならばするだと思います。その支援の中で培ってきた人や関係機関との繋がり、連携はばばてるの財産です。もちろん様々な悩みや問題が全て解決に至ったわけではありません。足りない社会資源、困難事例への対応の仕組み等まだまだ取り組むべき事が沢山あります。

様々な制度や福祉サービスは充実してきましたが、相談者の方が抱える複合的な悩みを解決する為の連携の仕方や仕組み作りは、まだまだ発展途上です。これからのはばしては、培つてきた財産を糧に、その地域づくりのノウハウが求められています。

これからは地域の支援者とスクラムを組み、相談員のレベルアップにも力を入れ地域に頼りにされる基幹相談支援センターとして成長していきたいと

寄稿を機に、入職当時を振り返つてみた。大学卒業後の1年間、期限付き採用で特別支援学校に勤め、その期限の切れる頃に侑愛会に拾つてもらつた。入職して数年はまだ教員になるつもりだったので、「福祉の経験と視点をもつた教師にオレはなる、時代はジエネラリストだ」と、聞きかじりの理想を語る姿が思い出され、懐かしくも恥ずかしい。それから20数年、果たして今の自分は成長したのか、変わつたのか。甘つちよろい夢ばかり見ず、しつかりと地に足を付けといえば聞こえは良いが、その実、当たり障りなく何事も無難にこなそうとする、つまらない大人になつてはいないだろうか。

発達障害者支援センターあおいそらは、個々のニーズに寄り添いつつ、地域全体の理解啓発や人材育成と、それらに依る支援体制整備等を事業の主軸としており、法人内においてはやや特殊な業務を担う。そのような特徴を持つからこそ、すべき役割や持てる視点があるはずで、そこにはチャレンジとフロンティアの精神が必要だと自戒と共に感じている。

施設長という重責を担うこととなって約1年、ただできえ慣れない日々にコロナもあっておそらく他のベテラン施設長でさえも未経験であろう事態だったと思う。ようによつてこんな、という思いの一方で、法人全体が一丸となつてチームとして機能する様に感動を覚え、誇らしくもあり、その一端について、施設長としての在りようを体感することができた。振り返つてみたが自問ばかりで、答えは未だおぼろげながら、月並みだが、あらためて初心にかえり、青臭い理想と夢に燃える人でありたいと思う。そして、「ゆうあい」のこころを紡いでいく

社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)

[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)

寄稿を機に、入職当時を振り返つてみた。大学卒業後の1年間、期限付き採用で特別支援学校に勤め、その期限の切れる頃に侑愛会に拾つてもらつた。入職して数年はまだ教員になるつもりだったので、「福祉の経験と視点をもつた教師にオレはなる、時代はジエネラリストだ」と、聞きかじりの理想を語る姿が思い出され、懐かしくも恥ずかしい。それから20数年、果たして今の自分は成長したのか、変わつたのか。甘つちよろい夢ばかり見ず、しつかりと地に足を付けといえば聞こえは良いが、その実、当たり障りなく何事も無難にこなそうとする、つまらない大人になつてはいないだろうか。

発達障害者支援センターあおいそらは、個々のニーズに寄り添いつつ、地域全体の理解啓発や人材育成と、それらに依る支援体制整備等を事業の主軸としており、法人内においてはやや特殊な業務を担う。そのような特徴を持つからこそ、すべき役割や持てる視点があるはずで、そこにはチャレンジとフロンティアの精神が必要だと自戒と共に感じている。

施設長という重責を担うこととなって約1年、ただできえ慣れない日々にコロナもあっておそらく他のベテラン施設長でさえも未経験であろう事態だったと思う。ようによつてこんな、という思いの一方で、法人全体が一丸となつてチームとして機能する様に感動を覚え、誇らしくもあり、その一端について、施設長としての在りようを体感することができた。振り返つてみたが自問ばかりで、答えは未だおぼろげながら、月並みだがあらためて初心にかえり、青臭い理想と夢に燃える人でありたいと思う。そして、「ゆうあい」のこころを紡いでいく



# 54年間ありがとうございました ～当別保育園～

漁業で忙しい地域の要望に応え、津軽海峡を見下ろす当別の高台に、侑愛会2番目の施設として当別保育園は昭和41年に開園しました。幾度かの定員数の変更、放課後児童クラブの開設を経て、0歳から12歳までの子どもたちが過ごしました。地域の未就学児の減少、建物の老朽化により、惜しまれつつ令和3年3月末をもちまして閉園することとなりました。



大きい子は小さい子に優しく接し、小さい子は大きい子の姿に憧れ、人数が少なってもみんななかよし。今までの卒園児に現在の在園児を合わせると559人。一時的に在籍していた子も加えると600人近い人数のお子さんが当別保育園で過ごし、巣立っていきました。

春は鶯の声を聞きながら桜の下でお花見、夏は磯遊びでカニを捕まえ、セミやアゲハの幼虫を羽化するまで見守る毎日。秋は釜炊きの新米、焼き芋をほおばり、大当別川まで鮭の遡上を見にお散歩。冬は屋根に届く程の雪山から津軽海峡に向かってそりすべり。前浜に白鳥が来たことで季節が巡ったことを知ります。これは自然豊かな当別だからこそできた経験です。



毎日を元気いっぱい安心して過ごすことができたのは保護者の皆様はじめ、地域の方々、法人の職員の皆様、当別保育園に関わってくださった全ての方々の温かい愛情のおかげです。当別保育園で楽しく過ごしたこと、泣いたり笑ったりしながら大きくなったこと、皆さんのが温かく接してくださったことは子どもたち、職員みんなの心の中にいつまでも輝き、生きる希望になり続けます。  
54年間本当にありがとうございました。



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)